

平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果



令和元年 12 月
海老名市立今泉小学校

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学，英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

平成 31 年 4 月 18 日（木）



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方や工夫を捉える
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
- ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
- ・目的に応じて、質問を工夫する
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 全体的に全国平均を上回っており、特に選択肢の問題は正答率が高い傾向にあります。
- 昼職人へインタビューをするような問題では、質問の工夫や、自分の理解を確認する質問など、質問として適切なものを選択することができています。
- 疑問に思ったことに対する答えを文章から読み取る問題など、読むに関する問題の正答率が91.3%と高いです。

◆課題のある点

- 公衆電話について調べた結果を報告する文章を書く設問では、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができた児童の割合が、県と全国の平均より上回っていたものの、正答率は32%でした。
- 調査の「たいしょう」、「かんしんをもってもらいたい」など、漢字を文の中で正しく使って書き直す問題では、県と全国の平均より正答率が下回っています。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 漢字の読み書きについては、学校だけではなく家庭学習等でも練習を積み重ねて、定着をさせていきたいです。
- 文章全体の内容や構成を考えて、事例や条件を挙げて詳しく書く活動を行っていきます。
- 学級での話し合い活動などを通して、話し手の意図を捉えながら聞いて、考えをまとめて、自分の意見を述べる機会を積極的に取り組んでいきたいです。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・台形について理解している
- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
- ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる
- ・2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる
- ・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる
- ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる
- ・示された除法の式の意味を理解している
- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
- ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述し、その結果から判断できる

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 図形の性質や構成要素に着目して、合同な2つの台形を合わせてできる図形を選ぶ問題は、正答率が70.9%と、県や全国平均よりも10ポイント以上上回っていました。
- 示された図形の面積の求め方を示された数や式から解釈し、それを説明する問題（正答率56.3%）、棒グラフと関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題（正答率63.1%）は、県や全国の平均よりもかなり上回っていました。

◆課題のある点

- $6 + 0.5 \times 2$ の答えを13とした児童が全体の1/5以上いました。乗法を先に計算するところを、加法を先に計算したとみられます。
- 減法、除法について、示された計算の仕方を解釈し、それを適用する問題の正答率は、減法、除法で、ともに全国平均を下回っていました。また、減法の場合を基に除法の計算の仕方について記述する問題では、無解答率が17.5%と、県と全国の平均より多かったです。正答率は、県と全国の平均を上回ったものの、37.9%でした。
- 数と計算、図形、数量関係ともに、理由や説明を記述する問題では、求められている記述内容をきちんと記述していない解答が多く、そのために誤答となっているものもありました。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 四則の混合した式や()を用いた式について、計算の順序を具体的な場面において理解できるようにし、習熟を図ります。
- 各学年で新しい計算の仕方を考える学習が繰り返し行われます。その中で、既習事項と関連付けたり、計算に関して成り立つ性質を生かしたりして考えることを指導していきます。
- 図形や単位量当たりを求めて考える問題では、記述問題にも頑張っており取り組もうとする傾向が見られました。考えを表現し、伝え合う活動の中で、更に、大切なことを押さえて順序を考えて分かりやすく説明することや友達の考えを読むことにも目を向けさせていきたいです。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 自分で家庭学習の計画を立てて勉強している児童が多いです。(84. 1%)
- 読書を好きと思っている児童が多いです。(85%)
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと答えた児童が多いです。(78. 5%)
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に多くの児童が取り組んでいます。(80. 4%)

◆本校の課題と思われるところ

- 算数の勉強が好きだと答えた児童の割合が、国語の勉強が好きだと答えた児童の割合に比べて低くなっています。(算数64. 5%、国語76. 6%)

生活について

◆本校のよかったところ

- 毎日の就寝時刻、起床時刻がほぼ決まっている児童が多いです。(就寝時刻が92. 6%、起床時刻が96.3%)
- 自分には、よいところがあると思っている児童が多いです。(85. 9%)
- 将来の夢や目標がある児童が多いです。(92. 5%)
- 学校のきまりを守ったり、人が困っているときに進んで助けたりすることができる児童が多いです。(きまりを守る98. 1%、人を助ける95. 3%)

◆本校の課題と思われるところ

- 今住んでいる地域の行事に参加していますと答えた児童の割合が高くないです。(参加していない、どちらかといえば参加していないと答えた児童が、39. 2%)

今後の具体的な取組について

○子どもたち自身が、授業中にどのように学び何を感じたのか、その学んだ知識を実生活でどのように役立てていけるのかをふり返る、「ふり返りの時間」を充実させていきます。この「ふり返りの時間」は、学習内容を定着させるとともに、次の学びへの活力や原動力にもなります。国語科や外国語活動、総合的な学習の時間においてその成果が表れているので、算数科をはじめとした他教科でも応用していきます。

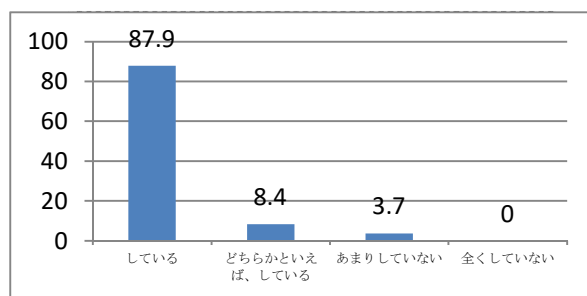
○自分や友達の良さに気づき、児童の自己肯定感が高まるような授業づくり、学級づくりをしてきました。場面・状況に合わせた言葉遣いなどの基本的な生活習慣に加え、前向きな言葉や肯定的な考え方で児童と接することで、児童の小学校生活を支えてきました。今後は、地域のよさを今まで以上に児童全体に広げていきます。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 規則正しい生活をしていきましょう。

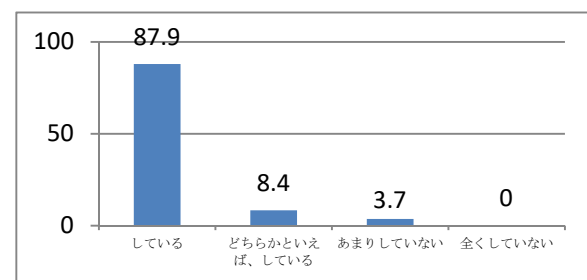
毎日、朝ごはんを食べることで活動や学習のための体の準備ができ、これは生活全体のリズムを保つうえでも大切なことです。これからも、家族みんなで協力しあいましょう。



朝食を毎日食べていますか

2 子どもたち自身で考える習慣をつけさせましょう。

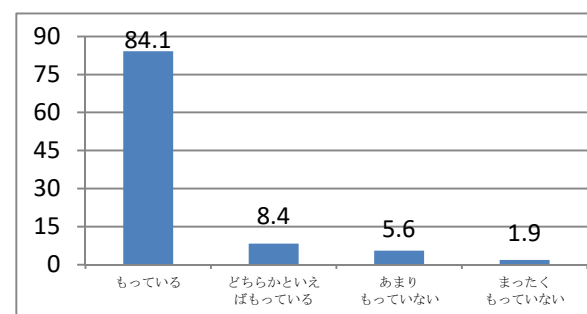
これからの時代は、子どもたち自身が考えたり、学び方を調整したりする力が大切です。子どもたちの決めたことを認め、支えていきましょう。



自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか

3 お子さんと夢や目標について語り合いましょう。

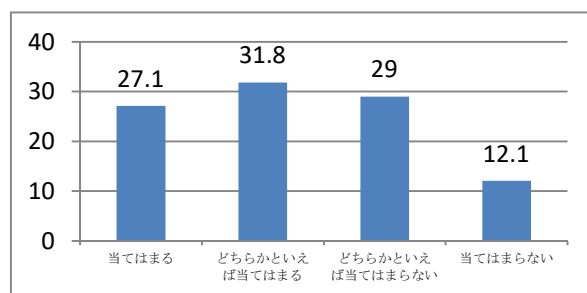
今泉小学校の児童は、夢や目標を持っている子が多く、これは、たいへんすばらしいことです。夢や目標を明確に設定することで、生活を改善する力や学ぶ力が高まります。



将来の夢や目標をもっていますか

4 家族みんなで地域の行事に参加しましょう。

子どもは地域社会の中で様々な経験をして成長していきます。道徳の時間や総合的な学習の時間を核として地域のよさを発信しますので、ご協力よろしくお願いいたします。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学 校 生 活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様により市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

